

## 学校推薦型選抜

令和8年度

## 総合問題

経済学部

## 注 意

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題は、1ページから8ページにわたっています。
3. 解答用紙は2枚、下書用紙は2枚、問題冊子とは別になっています。
4. 試験開始の合図があつてから直ちに問題冊子、解答用紙、下書用紙を確認し、不備がある場合は監督者に申し出てください。
5. すべての解答用紙の所定の欄に、受験番号を記入してください。
6. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としません。
7. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

【問題1】 次の文章を読んで、[設問1] から [設問4] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

伝統的な哲学の区別に従えば、道具と人間は截然\*と区別されるべき二つのカテゴリーである。道具は、人間が特定の目的のために制御して用いる対象である。これに対し人間は、他の存在によって制御されない自律性を持ち、種々の権利が認められ、また責任を引き受ける主体となる。AIがこのカテゴリーを侵犯するような「道具かつ人間」であるのは、それが例えば「研究」という大きな目的に奉仕している限りでは道具であるが、その過程で用いるアルゴリズムがもはや人間にとってブラックボックスであり人為的制御を超えているという意味で、道具的働きのうちに人間のような自律性を持っているからである。つまりAIは制御の対象という点において道具であり、かつ制御を超えている点において人間的（他者的）なのである。もちろん、歴史的に見れば、奴隷や軍人のように、人間でありながら権利と責任の外部に置かれ、道具として用いられた人間は存在する。しかしながら、AIは、「人間の道具化」ではなく「道具の人間化」であるという点で、これらとは異なっている。

従来分類に当てはまらない新しい存在について考える上で、何か参考にするべき類似物はあるだろうか。(ア) 社会哲学が専門の稲葉振一郎は、意外にも、AIについて考えるためには農業のアナロジーが参考になるのではないか、という視点を提示している。稲葉が目指するのは「所有」の観点である。

稲葉によれば、所有の典型的な対象は、歴史的に変化してきた。①初期近代までは、財産の典型は、家畜化・栽培化された (domesticated) 動植物、さらにはそれらを軸とした農場や田園であった。これらの対象は、自然物であるが人間による介入を受けており、しかし完全にはコントロールできない。稲葉はこれを「生ける人工物」と呼ぶ。②次に産業革命以降の財産の典型は、工場によって生産された「無機質な人工物」である。③その後情報化の時代が来ると、物ではなく知識や情報が財産の典型となる「知的所有権」が夢見られるようになる。④そして最後、AIの時代においては「生物学的な意味では「生きて」いないが、一定の自律性をもって勝手に動き回り、人間の理解を超えた振る舞いを示すという意味では「生きて」いると言える新たな人工物が財産の典型であるような時代が、訪れようとしている」と論じる。

すなわち稲葉は、AIを、人工物でありながら「人間の理解を超えた振る舞いをする」という点においてある種の「生ける人工物」とみなし、これは初期近代の財産の典型であった家畜や栽培植物、さらにはそれを取りまく環境と似たものとして理解するべきだ、と主張しているのである。確かに、家畜や栽培植物は、人間による餌やりや品種改良といった介入を受けているが、同時に、地中での菌を媒介とした他個体とのネットワークの構築や病気・死亡のタイミングなど、人間の制御を超えた要素をも内包している。このアナロジーに従うなら、AIと人間の関係は、道具のように「使う」対象でも、人間のように「社会をつくる」相手でもなく、むしろ「飼う」あるいは「飼い慣らす」対象である、ということになる。

AIを「飼う」とはどういうことか。たとえば、文字通り「飼う」ことを目的として開発されたロボット『LOVOT』(GROOVEX株式会社)を手がかりに考えてみよう。LOVOTは丸っこい形

をした高さ四三センチメートルのロボットで、柔らかい体を抱くと平熱三七-九℃と生き物のように温かいのが特徴である。

LOVOTは一見すると極めて人懐っこいロボットだが、興味深いのは、徹底的に「自律性」を重視して開発されていることである。たとえば、LOVOTは充電が減ると自ら充電場所(ネスト)へ帰る。充電が切れそうなタイミングで抱かれると、体を揺すり、不満そうな声を出して空腹を表明する。つまり飼い主の都合で遊ぶことはできず、LOVOT自身の都合で活動しているのである。

人間の都合に沿って生きない、つまり道具のような利便性を持たない存在だからこそ、人間はLOVOTを「飼う」ことができる。開発者の林要は、LOVOTを飼うことの意味を、「空気を読めない人」あるいは「共感しすぎない人」がいることの価値として説明する。

ただし、ここで注意しなければならないのは、人類史に見れば、「飼う」ことはつねに「飼われる」ことであった、という事実である。人類学者のアリス・ロバーツが指摘するように、飼うことは決して相手を制御して支配下に置くことではなく、もともと備わっていた特徴をお互いが相手にあわせて徐々に変化させること、つまり「共進化」に他ならない。ロバーツは言う。「われわれは、自分が主人で、ほかの種は自発的な僕か奴隷だと当たり前のように考えている。ところが、われわれが動植物と結んだこうした契約関係は、それぞれに異なる複雑なもので、共生や共進化の状態へと徐々に進展した」。飼うものと飼われるものの関係は、徐々にカップリングされついに離れることができなくなった相互依存である。

たとえばオオカミは、人間の近くで暮らすようになったことで雑食のイヌへと進化したが、同時に人間もまた、イヌがいたことによって狩りの能力が向上し、大型動物を倒して生息域を拡大することに成功した。同じことが、コムギ、トウモロコシ、ジャガイモなどの農作物、あるいはウシやウマなどの家畜についても言える。つまり、地球上の多くの種が人間を自らの協力者として利用しているのであり、このことは裏を返せば、人間は地球上でもっとも「飼われやすい生き物」ということでもある。

ここで再び、AIを家畜や栽培植物を類比的にとらえる稲葉の見方を思い出そう。このアナロジーをそのまま適用するなら、人間が人類史の過程でオオカミやコムギと相互依存的な関係に入っていた同様のことが、人間とAIの関係に対しても起こる、という予測がつくことになる。そして実際、そのような依存関係はすでに起こり始めていると考えるべきだろう。

法学者の稲谷龍彦は、2018年4月に東名高速で生じたテスラ車の関係する死亡事故、およびそれに続く2020年3月の概要について、AIが法的責任制度にもたらす影響について論じている。当該車は、車間距離を一定に保つ運転支援システムが搭載されていたが、前方にバイクなどがあってもかかわらず、高速道路上で急加速した。この間、運転者は居眠りをしており、急加速という予期せぬ挙動に対応できなかったために、自動車の前方にいた人々に衝突して、死亡事故となった。〔中略〕

これに対して(イ)稲谷は、認知科学の成果などを参照しながら、AIと共同作業をする際の人間の能力と、単独で行為するときの人間の能力は、同等のものとは仮定できないのではないか、と指摘する。「自動化された機械と人が協調動作する際に、人間側の注意水準が低下

する、または主体性感覚が失われることは、実験を通じて徐々に明らかにされつつある。つまり人間の能力は文脈依存的なのであって、AIとともに仕事を行う人間は、AIと相互依存的な関係に入っており、法律が前提にしている自律した主体とは言えないのではないか、と疑問を呈するのである。また、低頻度でしか生じない事象に対しては訓練を積んでいても対応がしにくく、テスラ車の運転支援システムが良いものであればあるほど、かえって運転者が事故を防げない可能性も示唆している。

(ウ) 稲谷は、AIの存在は近代法が想定としている二つの前提を揺さぶるものである、と指摘する。その前提とは①「人は理性と自由意志によって、自らの行為を適切に統御できる主体（人間）であり、理性や自由意志を持たない客体（事物）は人の支配下に置かれるものである」、②「様々な事象の発生原因は個別具体的に特定できる」の二つである。ひとことで言えばこれは、人間を他の存在の影響を受けない主体的かつ自律的な存在とみなす、近代的な人間観である。

しかしここまで見てきたように、AIという「道具のような人間（他者）」との共生は、(エ)人間を「AIを飼う存在」かつ「AIによって飼われる存在」へと更新しつつある。私たちに求められるのは、それを悲観したり糾弾したりすることではなく、むしろ「依存かつ自律」した存在としての人間観にもとづいて社会を構築し、適切な線引きを行うことではないだろうか。そもそも、AIの利用や開発を禁止することはもはや現実的ではない。それならば、たとえば農業や畜産業といった「よきアナロジー」を人類史上に見だし、そこから学んで未来のあり方を考えていくべきではないだろうか。

[注] \* 截然（せつぜん）：区別のはっきりとしているさま。

[出典] 伊藤亜紗「AI時代の自律と依存」、『学術の動向』，29(1)，2024，50-54頁。なお、問題作成において、文章・見出しなどを一部省略・修正した。

[設問1] 下線部（ア）について、稲葉はAIをどのような存在として理解すべきだと主張しているか。文中の表現を用いて説明しなさい。

[設問2] 下線部（イ）について、稲谷はなぜそのように考えているのか。人間の能力の特徴を文中の表現を使って示しながら説明しなさい。

[設問3] 下線部（ウ）について、近代法が想定する人間とは何か。30文字程度で答えなさい。

[設問4] 下線部(エ)について、著者はAIとの共生社会において、人間はどのような人間観にもとづいて行動すべきと考えているか。文中の表現を用いて説明しなさい。

【問題2】 次の文章を読んで、[設問1] から [設問5] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

From a voice actor course to computerized composition, music colleges and universities across the country are launching new courses and majors. Young people are increasingly refraining from\*1 majoring in music, which is causing the schools to adapt to the times. Educational institutions that offer higher education in music are trying to change their classical-music-only image and working hard to make a grand recovery to secure students.

### *Demand for video streaming\*2*

“Should the camera be closer?” asked a first-year student of the Senzoku Gakuen College of Music’s media arts course at the college’s studio in late May. A group of five students were filming other students. The group was assigned to work on the shoot by dividing the roles of director, camera and sound crew\*3 and others among themselves.

The media arts course was launched in the college’s music department this fiscal year\*4 to teach students visual media production, including shooting, editing and recording, for four years. Thirty students enrolled\*5 in the course with aspirations\*6 to make their names in the TV and music industries amid\*7 increasing demand for live streaming and other visual media.

The Senzoku Gakuen College of Music opened in 1967. Although the college used to only teach subjects connected with classical music, such as those involving composition and musical instruments, it now offers a wide variety of majors, including the dance course and the voice actor/animation song course.

“Commercial music, like pop, is mainstream in the music scene, and the number of children taking piano lessons has dwindled\*8. Therefore, we’re remodeling our college to meet the demands of the times,” said Prof. Akio Shimizu, assistant director of the college’s music department.

### *Not enough students*

As things currently stand, the college can no longer attract enough students if it continues to only teach classical music. Of the 11 private universities and colleges which have a single department mainly teaching music, seven did not have enough applicants in fiscal 2023. Ueno Gakuen University, the alma mater\*9 of world-famous pianist Nobuyuki Tsujii, stopped recruiting new students from fiscal 2021. The college is now in the process of closing down.

“Only around one in 100 students can make their living as a professional musician right after graduation,” said Prof. Takao Ouchi of Nagoya University of the Arts, who is well-versed\*10 in the management of music colleges. “In recent years, more and more

female students say they want to get a job and become independent, so they ①are shying away from education meant to nurture\*<sup>11</sup> instrumentalists.”

According to the Education, Culture, Sports, Science and Technology Ministry’s basic statistics on schools, 3,784 students enrolled in music-related courses at universities and colleges in fiscal 2023, a decline of about 30% compared to 20 years ago. Among female students, the decline rate was about 40%.

“Starting a new course is a survival method for universities and colleges that realize the need for education with an eye on what students can do after graduation, such as finding employment or starting a business,” Ouchi said.

### *High barriers for pro artists*

The barriers to entry\*<sup>12</sup> for those aspiring to become professional instrumentalists are high. According to the Association of Japanese Symphony Orchestras\*<sup>13</sup>, 40 professional Japanese orchestras currently hold membership with the association. The number of musicians belonging to those orchestras was just 2,353 in fiscal 2022. Unlike most companies, orchestras do not regularly hire new members. They audition\*<sup>14</sup> new members only when there are vacancies\*<sup>15</sup> for certain instruments, which is one of the reasons it is so difficult to find a job with a professional orchestra. There are also many people who, after graduating from music colleges or universities, chase their dreams of becoming a professional musician by studying overseas or gaining experiences as an extra in an orchestra.

#### [注]

- \*1 refraining from ～することを控える・避ける
- \*2 video streaming 動画配信 / 映像ストリーミング
- \*3 sound crew 音響スタッフ・録音班
- \*4 fiscal year 会計年度 (本文では 2024 年度を指す)
- \*5 enroll 入学する、登録する
- \*6 aspiration 願望、志
- \*7 amid ～の中で
- \*8 dwindle 減少する
- \*9 alma mater 母校
- \*10 well-versed 精通している
- \*11 nurture 育成する
- \*12 barriers to entry 参入障壁
- \*13 symphony orchestras 交響楽団
- \*14 audition オーディションする
- \*15 vacancy 空席、欠員

[出典] Mutsuko Yamada and Mai Niimi (2024) “Music Colleges, Universities Step Out of Tradition; Meeting Student Needs to Boost Recruitment” *The Japan News by the Yomiuri Shimbun*, August 1,  
(<https://japannews.yomiuri.co.jp/culture/music/20240801-202149/>) . より抜粋。  
なお、問題作成において、文章や語句などを一部省略・修正した。

[設問 1] What is the main idea of the reading? (単一選択)

- a. Japanese music colleges are actively expanding overseas
- b. Music colleges are transforming from classical-focused to diverse fields to secure students
- c. Becoming a professional musician is not easier than before
- d. The cost of studying at music colleges has gone up a lot, causing student numbers to decline

[設問 2] Fill in the blanks \_\_\_\_\_ in the following sentences in English.

The media arts course was launched at Senzoku Gakuen College of Music due to the increasing demand for \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_.

[設問 3] Which of the following statements about the media arts course at Senzoku Gakuen College of Music is correct? (単一選択)

- a. It has been operating for 10 years
- b. It was launched this fiscal year (2024) as a four-year program
- c. Fifty students enrolled in the course
- d. It was established in the college’s drama department

[設問 4] 文脈から判断し、下線部①の “are shying away from” の意味として最も適切なものを選んで答えなさい。(単一選択)

- a. ～に近づく
- b. ～を敬遠する
- c. ～を恥ずかしく思う
- d. ～に対して謙遜する

[設問 5] According to the passage, which of the following statements about getting a job with a professional orchestra are NOT supported by the text? Choose all that apply. (複数選択)

- a. Orchestras do not hire new members on a regular basis
- b. Auditions are held only when there are openings for specific instruments
- c. There are too many music colleges producing graduates in Japan
- d. Professional orchestras require overseas study experience as a requirement
- e. Music college graduates lack the necessary technical skills

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

令和8年度 経済学部 学校推薦型選抜（総合問題） 解答用紙

(2枚中1枚目)

【問題1】

[設問1]

---

---

---

設問1 得点

[設問2]

---

---

---

設問2 得点

[設問3]


設問3 得点

[設問4]

---

---

---

設問4 得点

総得点

受験番号								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

令和8年度 経済学部 学校推薦型選抜（総合問題） 解答用紙

(2枚中2枚目)

【問題2】

[設問1]

( )

設問1 得点

[設問2]

\_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_

設問2 得点

[設問3]

( )

設問3 得点

[設問4]

( )

設問4 得点

[設問5]

( )

設問5 得点

総得点

見本

下書用紙

見本

下書用紙